

令和6年度第1回地域包括ケアシステム検討委員会次第

日時 令和6年7月5日(金) 13:30～

場所 高梁市役所 3階大会議室1

1 開 会 (進行:助實主査)

2 あいさつ (内岡所長)

第9期介護保険事業計画を策定し、住民主体通いの場の維持・推進、ICTを活用した医療・介護間での情報連携など地域包括ケアシステムの深化・促進に向けて引き続き取り組みを進めている。高齢者が住み慣れた地域で自分らしく生きることができる高梁市に一步でも近づけられるよう委員の皆さまのお知恵を貸していただきたい。

3 自己紹介

4 委員長選任 (職務代理者指名)

委員長:山根 由美 委員 職務代理者:平松 智布美委員

委員長あいさつ

高梁市の地域づくりのために委員の皆様のご活発な意見をお願いしたい。

5 協議事項

(1) 地域ケア会議について (江藤主幹)

資料5～7ページにて説明

(2) 高梁市の取り組みについて (石村委員、助實主査、惣田主事)

① 住民主体の通いの場 (元気なからだづくり隊) 資料9～10ページ

② ボランティア養成講座 いきいき生活サポーターの養成 資料11～12ページ

③ 高梁市介護支援専門員研修会 資料13ページ

④ 住民主体の通所型サービスB 資料14～16ページ

もくもく・DAY (巨瀬町)・うかん気楽会 (有漢町)

⑤ 通所付添サポート事業 資料17～18ページ

⑥ 生活支援コーディネーター (生活支え合い推進員) の活動 資料19～25ページ

【質疑応答】

- ・元気なからだづくり隊の立ち上げが無い地域へのアプローチはどう考えるか?
⇒生活支援コーディネーター、関係機関で協力して介護予防の取組の重要性を周知し立ち上げにつなげていきたい。
- ・元気なからだづくり隊が新規に立ち上がったたり、活動休止したりすることがあると思うが最新の情報を知るにはどうすればいいか?
⇒市のホームページに情報を掲載していることと、情報提供としてケアマネジャー等に周知し

ている。

- ・介護支援専門員研修会でヤングケアラーを題材にしているのはなぜか？

⇒介護保険事業計画で本人支援だけでなく、ヤングケアラーへの支援が方針として定められた経緯があり題材とした。

- ・ボランティア養成講座の受講者が地域によって偏りがあり確保が難しいと思うが、ボランティアの確保に向けてどういった対策をしているか？

⇒これまで養成講座の会場を高梁旧市街地のみとしていたが、昨年度は高梁会場と成羽会場の2会場・2日程で実施した。修了者は増えているが登録者が少ないことが課題となっている。

- ・ボランティア養成講座を受講しても登録者が増えない原因はなぜか？

⇒勉強のため受講した、既に別のボランティアをしており手が回らない、自信が無いと言った声があった。

(3) グループワーク（説明：江藤主幹）

テーマ（ 高齢者の移動支援～買い物について～ ）

- ・「買い物支援」としてどんなものがあるか
- ・私たちにできることは何か

※2グループに分かれてテーマについてのグループワークを行う。

①グループ

- ・お店による買い物バスツアーを実施する
- ・コミュニティで乗り合わせて複合施設で買い物する
- ・カフェやサロン実施時に移動販売車を調整する

②グループ

- ・生協の注文書は高齢者には文字が見えにくく、注文が難しい場合がある。アプリの開発や大きい字や注文のみできる専用タブレットを検討している。
- ・ヒルクライム出場者のような自転車乗りの人によるコース近辺の人への配達
- ・コミュニティバスでお店や医療機関を巡る
- ・地域のつながりが希薄となっているのでコロナで中止となったイベントを再開することで、人とのつながりを強化する

※まとめ（山根委員長）

地域の商店が閉まったり、移動販売車が来なくなった地域もあるため買い物支援は重大な課題だと思う。今年度のテーマに沿って実現できそうなことと難しいそうなことを話し合いながら、課題解決につなげたい。

6 その他 令和6年度家族介護者の集いの案内

7 閉 会（山根委員長）

地域をよりよくすることがこの会の目的のため、情報交換の場として今後も活用してほしい。

次回 10月29日（火）13:30～ 3階大会議室1